研修内容の該当性についての証明書

|  |
| --- |
| （一社）日本臨床腫瘍薬学会  　理事長 殿  研修者氏名  　上記の者に実施した研修について、下記に関しての研修を実施したことを証明いたします（実施した項目にチェックしてください）。  □　多職種連携  □　レジメン  □　副作用のモニタリング  □　検査結果等に基づいた、抗がん薬処方内容の検討  □　支持療法  □　抗がん薬調製  □ がん患者への服薬指導   * 薬局との連携   西暦　　　　 年　　　月　　　日  研修施設名  研修部門部門長役職  部門長（自署） |

※留意事項をよく読んだうえで、研修で実施していた場合に各項目にチェックを入れてください。

研修内容の該当性についての証明書の作成の留意事項

（１）各研修内容については、以下の考え方を参考にして、研修内容で実施している場合にチェックを行ってください。

１）多職種連携

　　がん診療病院連携研修のコアカリキュラム2.（ア）「研修病院で実施される診療科カンファレンス、キャンサーボードなどに参加し、がん治療における薬剤師の役割を学ぶ。」を想定しており、研修で診療科カンファレンスへの参加やキャンサーボード、緩和ケアチームなどを行っている場合に該当します。

２）レジメン

　がん診療病院連携研修のコアカリキュラム2.（ウ）「研修病院におけるレジメン管理の方法、運用を学ぶ。なお、レジメン審査を行う委員会等へ同席することが望ましい。」を想定しています。レジメン審査を行う委員会への出席は必須ではありません。

３）副作用のモニタリング

　がん診療病院連携研修のコアカリキュラム2.（エ）「がん患者の治療全体を把握した上で、がん薬物療法に用いられる薬剤の特性に応じて、継続的に患者の状態を適切にモニタリングする。」を想定しています。

４）検査結果等に基づいた、抗がん薬処方内容の検討

がん診療病院連携研修のコアカリキュラム2.（オ）「腎機能、肝機能、血液学的検査などの指標に基づいて、抗がん薬の種類、 投与量、投与期間等の変更を検討する。」を想定しています。具体的には、入院・外来患者への服薬指導等を通して、治療のモニタリングやレジメンチェック、処方内容の検討などを行っている場合に該当します。

５）支持療法

がん診療病院連携研修のコアカリキュラム2.（カ）「がんまたはがん化学療法による様々な症状に対して、支持療法を検討する。」を想定しています。

６）抗がん薬調製

がん診療病院連携研修のコアカリキュラム2.（シ）「抗がん薬調製や投与時に医療者が実施している曝露対策等を見学し、配慮事項を説明できる。」を想定しています。曝露対策に関しての項目は必須とはしていません、抗がん薬調製に関しての研修を行っていれば該当します。調製の実技を伴わない場合であっても、見学や講義などで実施している場合でも該当します。

７）がん患者への服薬指導

抗がん薬についての服薬指導だけでなく、支持療法に係る医薬品であってもがん薬物療法の一環として行われている場合は、該当します。

８）薬局との連携

がん診療病院連携研修のコアカリキュラム2.（コ）「がん治療における研修病院と薬局間の連携方法を学び、自ら研修期間中に薬局との連携を実施することが望ましい。」を想定しています。薬局との連携に関しての研修を実施していない場合は、申請者の自施設での連携業務を提出することで代替できますので、必ずしもチェックは必要ありません。